

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書

平成 26 年 6 月 15 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	水越 楓

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)
鹿児島県・屋久島
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)
屋久島実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 18 日 ~ 平成 26 年 5 月 26 日 (9 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京都大学
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
1. はじめに 私が所属していた植物チームはシダ植物の前葉体を異なる三地点で収集し、種分布の差異を知ることが目的として調査を実施した。調査地は宮之浦川、女川、花揚川の三地点とし、三日間にわたって調査を実施した。
2. 調査概要 ● 5月20日 宮之浦川上流付近にて調査を行った。雨がひどかったため車にて移動。50cm×50cmのコデラートを設置して前葉体を収集しつつ、周辺に生えている胞子体も同時に収集した。宿舎にて集めた前葉体を実体顕微鏡にてコケと分別した結果、前葉体は8個のみとなってしまったため、次の日以降はコデラートを設置せず、決めたポイントにおいてランダムにサンプリングすることとした。
● 5月21日 二日目は、女川の川岸付近にてランダムサンプリングによって収集した。二地点で前葉体を収集し、その二地点間に生えている胞子体を集めた。コデラートを設置せずに収集し

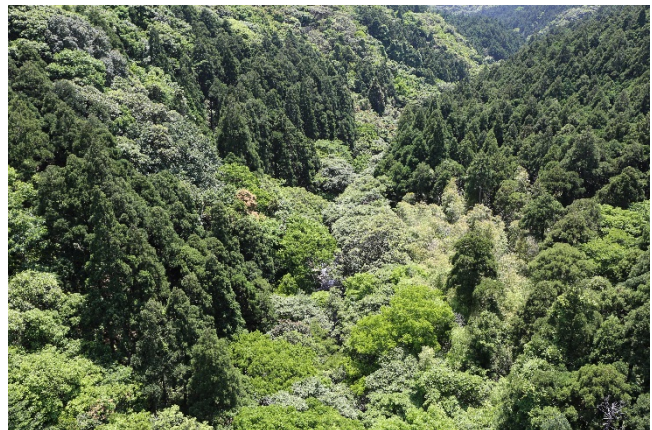


写真 1 女川を橋の上から

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書

たためか、前日よりかなり多くの前葉体を集めることができた。

● 5月22日

三日目は、花揚川の川岸付近にて同様に調査を行った。前日までの二地点と異なりかなり湿ったところが多かったためか、沢山の前葉体を収集することができた。前葉体は三日間合計で200以上集めることができた。これらは、京都に戻ったのち、ゲノム科学実習においてDNA解析をし、どの種であるのかを調べることになる。

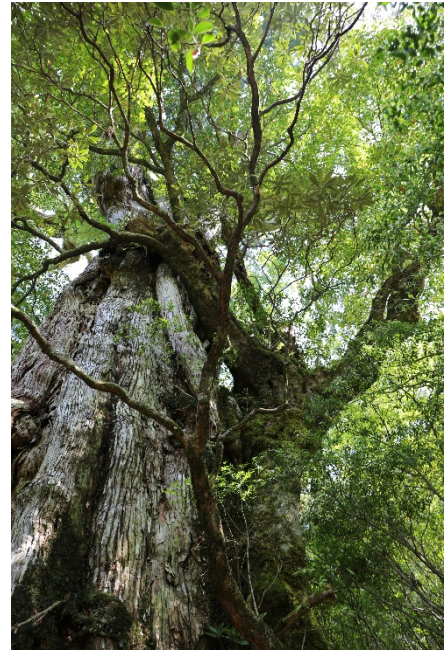


写真 2 紀元杉

3. まとめ

今まで参加したことのある植物系の実習でこんなに地面を見つめ続け、フィールドでミリ単位のものを探し続けたのは初めてであった。教科書でしか見たことのなかったシダの前葉体を初めて見たときは、その小ささに驚き、教科書まんまであることに感動させられた。形に少々違いはあれども、ここから種の同定は不可能であることは容易に想像ができ、DNA解析の必要性が感じられた。

屋久島の様々な場所にて調査を行ったため、異なった自然に触れることが出来、充実した実習であった。



写真 3 植物チーム集合写真

6. その他 (特記事項など)